

コンセプトカフェの成り立ちと展望

社会的背景と顕在化する社会問題

－多様性、SNS、心理、事例から－

藤井 葵

本研究は近年日本のポップカルチャーになりつつある「コンセプトカフェ」をテーマに、その成り立ちと展望、発展を支えた社会的背景とそこから生じる問題点の分析を目的とする。そして、「コンセプトカフェ文化は10年後の日本でどうなっているか」という問いに対して、現在よりも店舗数は増加し、社会的認知度も高まっているという仮説を立て、検証を行った。近年、コンセプトカフェは若年層を中心に拡大し、娯楽や消費の場として広く認知されている一方で、そこで働く側の労働環境や社会構造との関係については十分に検討されてこなかった。本研究では、既存文献の調査に加え、学生を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、コンセプトカフェはメイドカフェを原型とする文化であり、社会的な認知度は高いものの、実際の来店経験は限定的であることが明らかとなった。また、認知度の拡大にはSNSの影響が大きいことが確認された。心理的側面については、キャストが働く動機をその〈芸能性〉に着目して捉え、キャバクラ嬢との比較を通じて分析を行った。また、利用者がコンセプトカフェに通う心理については、「感情的共同体」の概念に着目し、コンセプトカフェを〈新しい生き方〉や居場所を模索する場として捉える視点を取り上げた。さらに、労働に伴って生じうるリスクとして、ストーカー被害や無許可接待、未成年雇用といった法的問題に加え、依存構造の形成についても、具体的事例をもとに検討を行った。

本研究を通じて、冒頭に設定した仮説は一定の妥当性を持つことが確認され、コンセプトカフェは今後、日本のポップカルチャーの一部として定着していくと結論づけられた。今後の展望としては、SNSやメディア露出の拡大により認知度がさらに高まり、利用者および就労希望者の増加、インバウンド需要の拡大が進むと考えられる。一方で、法規制の厳格化によって違法・グレーな店舗は淘汰されるため、産業規模が無制限に拡大するのではなく、観光向けで健全性や体験価値を重視したコンセプトカフェが主流となっていくと推察される。